

中国における保育者の メンタルヘルスに関する研究

—レジリエンスに着目して—

王 路 曦
(2015年10月5日受理)

A Study of Chinese Preschool Teachers' Mental Health with a Focus on Resilience

Luxi Wang

Abstract: This study examines the resilience of preschool teachers and suggests ways to improve their mental health. These suggestions relate to teachers' years of experience and educational background, and focussed on 200 Chinese preschool teachers. The study found that the resilience of veteran Chinese preschool teachers, especially in terms of social support and self-efficacy, is lower than new and mid-career teachers. The study also found that preschool teachers with university degrees have lower self-efficacy than teachers who graduated from training colleges. Based on these results, it is necessary to enrich the veteran preschool teachers' social support and construct a system to enhance their self-efficacy. There is also a need to reinforce the knowledge and skills of preschool teachers with college degrees.

Key words: mental health, resilience, preschool teacher, China

キーワード：メンタルヘルス、レジリエンス、保育者、中国

1 研究背景と目的

保育者のメンタルヘルス (Mental health) の状況は、近年話題になっている保育の質とも関わり、子どもの発達に大きな影響を与える (曾, 2010; 張ら, 2012; 袁ら, 2015)。中国の保育者のメンタルヘルスが低下している傾向にあることが報告されており (張, 2013; 王, 2013)、仕事効率の低下、子どもへの虐待 (王, 2013)、離職年齢層の拡大 (張, 2013) などが発生している。

この状況を改善するために、待遇の改善、職場環境

本論文は、課程博士候補論文を構成する論文の一部として、以下の審査委員により審査を受けた。

審査委員：七木田敦 (主任指導教員)、河野和清、
深澤広明、中坪史典

などの整備が国や地方レベルで行われてきた。2010年に中国教育部は「基礎教育課程改革の推進に関する意見」を公布し、2011年には財政部や教育部が、「財政部や教育部の就学前教育への財政投入についての通知」を公布した。これらの措置を通して、職場環境の整備を行い、非常勤の保育者を常勤保育者に編入すると同時に、賃金上げを推奨し、職場環境の改善や保育者の待遇の向上を行ってきた。しかし、このような対応にもかかわらず、瀋陽市において SCL-90 症状自評量表 (SymptomCheck-List90, 以下、SCL-90 と略す) を使用して調査がなされた結果、瀋陽市の保育者のメンタルヘルス重篤度得点は、抑うつ感 1.50 ± 0.59 、焦燥感 1.39 ± 0.43 、恐怖感 1.23 ± 0.41 という全国の一般成人得点に対して、抑うつ感 1.87 ± 0.91 ($t=3.49, p < .01$)、焦燥感 1.78 ± 0.85 ($t=3.90, p < .01$)、恐怖感 1.57 ± 0.78 ($t=3.68, p < .01$) などのように、9項目の中で8

項目が有意に高かった。これにより、メンタルヘルスが低下した状況にあることが明らかになった（金ら、2009）。また、山東省や山西省の保育者も同様にメンタルヘルスが低下していると指摘された。（李、2005、李ら、2014）。

人々は各種のストレス（stressor）に直面する際に、自分の持っている忍耐力でストレスの軽減を図ろうとする。また、一時的に不適応な状況に陥った際には、回復力が必要であることが知られている。この忍耐力と回復力を合わせた総合的能力はレジリエンス（resilience）であり（Masten, 1990）、ソーシャルサポート（Social Support）、自己効力感、社会因子の3因子で構成されている（佐藤ら、2009）。また、Masten（1998）によれば、メンタルヘルスの状態は個人がおかれる様々な環境から刺激を受け、その刺激に対応した上で形成される。すなわち、メンタルヘルスは、個人のレジリエンスと環境との相互作用によって形成されていくものである（図1を参照）。そのため、メンタルヘルスを改善しようとする時、ストレス源となる外部環境を改善するだけではなく、個人のレジリエンスも改善する必要がある。

このことから、保育者のメンタルヘルスの改善にも、外部の職場環境などの改善だけではなく、保育者自身のレジリエンスの改善も必要であることが推測できる。しかし、保育者のレジリエンスに関しては、現在のところ、中国において検討されていない。そのため、本研究では、レジリエンスに着目して中国の保育者のメンタルヘルスとレジリエンスの状況を明らかにし、両者の関連を考察する上で、メンタルヘルスの改善に対する示唆を得ることを目的とする。

2 研究方法

2.1 調査対象と調査期間

研究対象に関して、特定の地域の保育者のみが調査

対象とならないよう配慮し、複数の県の保育施設において、各種類の保育者を調査対象とした。配布数は200部、回収数は200部（100%）、有効回答数は189部（94.5%）であった。調査期間は2014年8月から9月であった。

表1 各地域の内訳（人数）

	合計	経験年数			学 歴		
		新人	中堅	ベテラン	中等	専科	本科
A 県	61	34	8	19	19	37	5
B 県	55	32	8	15	19	22	14
C 県	73	50	13	10	13	51	9
合計	189	116	29	44	51	110	28

2.2 調査内容と方法

保育者のメンタルヘルスに関して、SCL-90を指標として使用した。SCL-90症状自評量表は1984年に標準化され（王、1984）、身体的症状（12項目）、強迫感（10項目）、人間関係のもつれ（9項目）、抑鬱（13項目）、焦慮感（10項目）、敵対性（6項目）、恐怖心（6項目）、偏執傾向（7項目）、精神的症状（10項目）、及び睡眠飲食状況など（7項目）の10因子、合わせて90項目で構成されている。各項目を0から4の五段階で評定し、合計得点が160点以上であれば、メンタルヘルスが「不調」と判断される。

また、保育者のレジリエンスについて、「S-H式レジリエンス検査票」（祐宗、2008）を指標として使用した。この指標は、次の3因子によって構成されている。

第一因子は、社会的な資源をどの程度有しているかについて、「親しい人と過ごす時間を大切にしているか」、「家族以外に悩みを相談できるか」などの12項目により評定する「ソーシャルサポート因子」である。第二因子は、自身がどの程度自立していると感じているかについて、「人に頼り過ぎないように心がけて

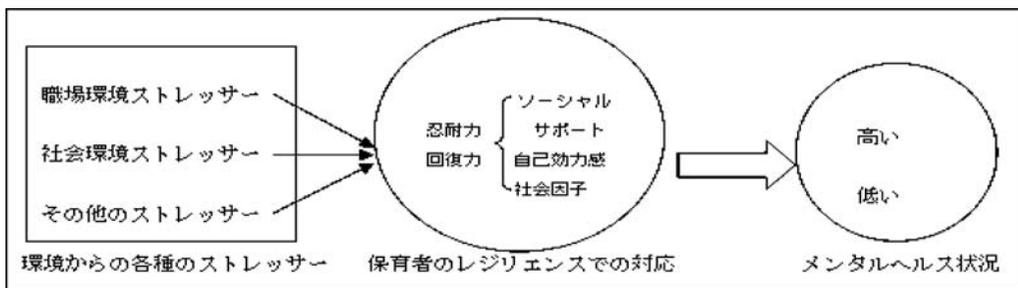


図1 保育者のメンタルヘルスが形成される過程（Masten1998により、筆者作成）

表2 レジリエンス構成因子の概要

レジリエンス 因子	各因子の概要	質問項目の例
ソーシャルサポート 因子	家族、友人、同僚などの周囲の人たちからの支援や協力などの度合いに対する本人の感じ方	<ul style="list-style-type: none"> あなたは家族や親しい人と過ごす時間を大切にしていますか あなたは愛情を注いでいるものがありますか
自己効力感 因子	問題解決をどの程度できるかなどの度合いについての本人の感じ方	<ul style="list-style-type: none"> あなたは人を頼り過ぎないように心がけていますか あなたは一つのことに対して、いろんな解決方法を試すほうですか
社会性 因子	他者との付き合いにおける親和性や協調性の度合いなどについての本人の感じ方	<ul style="list-style-type: none"> あなたは気が合いそうもないと思う相手であっても、相手に合わせて付き合い方を変えられますか あなたはどんな人でも、うまく付き合うことができますか

いるか」、「嫌なことでも自分がすべきことに積極的にいるか」などの10項目により評価する「自己効力感因子」である。第三因子は、他者とのようにコミュニケーションをとるかについて、「嫌な人でも仕事ではうまく付き合えるか」、「新しい人とうまく付き合えるか」などの5項目により評価する「社会性因子」である。これらの指標を用いて、今現在有しているレジリエンスを測定する。

2.3分析方法

Hiewら(2000)によれば、レジリエンスは個人内に存在し、特定の方法で獲得される能力である。この特定の方法とは、主に意識的な行動で獲得する方法と無意識的な行動で獲得する方法がある。意識的な行動とは、主に学校での学習を通して専門知識や技能を蓄積し、レジリエンスを保持するようになることを指す。無意識的な行動とは主に、逆境などから立ち直る際に、無意識にレジリエンスを保持するようになることを意味する。学校での知識獲得状況の差異は学歴と関連し、

逆境を経験する機会の差異は保育の経験年数と関連すると考える。よって本研究では、保育者のレジリエンスについて、経験年数の変化と学歴の変化の2つの側面からも分析を行う。

先行研究(袁, 2009; 上村, 2012; 田辺ら, 2014)では、保育者は、(1)就職した時点から5年、(2)5年以上から20年、(3)20年以上の3段階により、子どもへの関心、仕事の対応などが変わってくるとされている。この結果に依拠し、本研究では、経験年数が5年の保育者を「新人」、5年以上20年の保育者を「中堅」、経験年数20年以上の保育者を「ベテラン」に分類し、保育者のメンタルヘルスとレジリエンスの関連を考察する。

また、学歴について、現在の中国において、保育者養成は主に、中等専門教育機関である「幼児師範学校」、高等専門教育機関である「幼児師範専科大学」、「4年制の師範大学・師範学院(本科)」大学の就学前教育専攻」という3種類の養成機関で行われている。本研究では、保育者の学歴により、保育者を中等卒保育者、専科卒保育者、本科卒保育者に分類し、メンタルヘルスとレジリエンスの関連を考察する。

3 結果

3.1保育者のメンタルヘルス状況

保育者全体のSCL-90得点と、各保育経験年数や学歴別による保育者の得点を表3に示す。全体的にメンタルヘルスの状況が不調な保育者の割合は65.61%(124人)であった。経験年数別にみた結果、新人保育者の不調群の割合は66.38%(77人)、中堅保育者のは10.34%(3人)であった。これに対して、ベテラン保育者の不調群の割合は100%(44人)であった。学歴別にみた結果、中等卒保育者の不調群の割合の58.82%(30人)や、専科卒保育者の60%(66人)に対して、本科卒保育者の不調群の割合は100%(28人)であった。

3.2保育者のレジリエンス状況

経験年数別や学歴別にみたレジリエンスおよび構成因子の得点について、Kruskal-Wallis検定を用いて、各群におけるレジリエンス及び構成因子の得点の差を検討した。その後、2群ずつを比較した結果、レジリエンスにおいて、中堅保育者は新人保育者より高く($U=1344, p < .05$)、新人保育者はベテラン保育者より高かった($U=1592, p < .01$)。自己効力感においても、同様に中堅保育者は新人保育者より高く($U=1333, p < .05$)、新人保育者はベテラン保育者より高かった($U=1862, p < .05$)。ソーシャルサポートにおいて、新人保育者はベテラン保育者より高く($U=1380, p$

表3 保育者のメンタルヘルス状況

	保育者全体		メンタルヘルス良好群		メンタルヘルス不調群		不調群の割合
	人数	M±SD	人数	M±SD	人数	M±SD	
全体	189	1.72±0.36	65	1.59±0.26	124	1.89±0.39	65.61%
新人	116	1.68±0.31	39	1.31±0.18	77	1.81±0.23	66.38%
中堅	29	1.36±0.35	26	1.26±0.12	3	1.36±0.35	10.34%
ベテラン	44	2.05±0.20	0		44	2.05±0.20	100%
中等	51	1.64±0.35	21	1.28±0.16	30	1.89±0.20	58.82%
専科	110	1.67±0.35	44	1.30±0.16	66	1.85±0.26	60.00%
本科	28	2.05±0.26	0		28	2.05±0.26	

表4 経験年数別にみた中国における保育者のレジリエンスおよび構成因子の得点

		度数	平均値	標準偏差	多重比較
新人	レジリエンス	116	96.99	7.19	
	ソーシャルサポート	116	44.08	4.14	
	自己効力感	116	34.89	4.34	*
	社会性	116	18.09	2.01	
中堅	レジリエンス	29	99.59	2.98	**
	ソーシャルサポート	29	44.90	1.70	
	自己効力感	29	36.45	2.61	*
	社会性	29	18.24	2.03	
ベテラン	レジリエンス	44	91.98	7.99	
	ソーシャルサポート	44	40.89	4.74	
	自己効力感	44	33.00	3.95	*
	社会性	44	18.09	1.92	

*<.05、**<.01

表5 学歴別にみた保育者のレジリエンスおよび構成因子の得点

		度数	平均値	標準偏差	多重比較
中等	レジリエンス	51	99.25	8.36	
	ソーシャルサポート	51	44.27	4.50	
	自己効力感	51	36.35	4.45	*
	社会性	51	18.63	1.82	
専科	レジリエンス	110	95.11	6.71	*
	ソーシャルサポート	110	42.98	4.36	
	自己効力感	110	34.26	3.84	*
	社会性	110	17.86	1.99	
本科	レジリエンス	28	95.07	6.21	
	ソーシャルサポート	28	43.86	3.17	
	自己効力感	28	33.07	3.91	
	社会性	28	18.14	2.10	

*<.05、**<.01

<.01), 中堅保育者もベテラン保育者より高かったが (U=230, $p < .05$), 新人保育者と中堅保育者の間に、有意差は認められなかった (U=1675, n.s.)。

学歴別にみた保育者のレジリエンスおよび構成因子の得点を表5に示す。その結果、レジリエンスにおいて、中等卒保育者は専科卒保育者より高く (U=2448, $p < .05$), 本科卒保育者より高かった (U=601, $p < .05$)。自己効力感においても、同様に中等卒保育者は専科卒保育者より高く (U=2745, $p < .05$), 本科卒保育者より高かった (U=531, $p < .05$)。

3.3メンタルヘルスとレジリエンスの関連性

メンタルヘルスとレジリエンスの関連性について、メンタルヘルスの良好群と不調群のレジリエンス状況に対して、Mann-Whitney U検定を行った。全体的な両群の比較と経験年数別、学歴別の比較も行った。その結果を表6と表7に示す。

経験年数別にみた中国における保育者のメンタルヘルス良好群と不調群のレジリエンスは、全体的では両群のレジリエンス得点 ($p < .01$) とソーシャルサポート因子 ($p < .01$) において、有意差が認められた。また、新人保育者のレジリエンス ($p < .01$) やソーシャ

表6 経験年数別にみた中国における保育者のメンタルヘルス良好群と不調群のレジリエンスの状況

全体	(n=189)	良好群 (n=85)	不調群 (n=124)	U値
	M±SD	M±SD	M±SD	
レジリエンス	96.22±7.33	98.71±7.05	95.95±7.50	2961.00**
ソーシャルサポート	43.46±4.26	45.46±3.22	42.90±4.67	3060.50**
自己効力感	34.65±4.16	34.31±4.51	34.84±3.96	3120.00
社会因子	18.11±1.99	17.94±2.20	18.21±1.85	3486.00
新人保育者	(n=116)	良好群 (n=39)	不調群 (n=77)	
レジリエンス	96.99±7.19	98.12±6.94	95.23±7.36	1307.00**
ソーシャルサポート	44.08±4.14	44.72±3.00	42.80±4.67	1204.00*
自己効力感	34.83±4.34	34.97±4.73	34.48±3.83	1175.00
社会因子	18.09±2.01	18.43±1.94	17.94±1.99	1144.00
中堅保育者	(n=29)	良好群 (n=26)	不調群 (n=3)	
レジリエンス	99.59±2.98	99.67±0.58	99.51±3.07	28.00
ソーシャルサポート	44.90±1.70	44.33±1.53	44.96±1.73	16.50
自己効力感	36.45±2.61	37.00±1.00	36.38±2.74	24.00
社会因子	18.24±2.03	18.33±1.16	16.46±2.01	26.00*
ベテラン保育者	(n=44)	良好群 (n=0)	不調群 (n=44)	
レジリエンス	91.98±7.93		91.98±7.93	
ソーシャルサポート	40.89±4.74		40.89±4.74	
自己効力感	33.00±3.95		33.00±3.95	
社会因子	18.09±1.92		18.09±1.92	

* $p < .05$, ** $p < .01$

表7 学歴別にみた中国における保育者のメンタルヘルス良好群と不調群のレジリエンスの状況

全体	(n=189)	良好群 (n=85)	不調群 (n=124)	U値
	M±SD	M±SD	M±SD	
レジリエンス	96.22±7.33	98.71±7.05	95.95±7.50	2961.00**
ソーシャルサポート	43.46±4.26	44.46±3.22	42.90±4.67	3060.50**
自己効力感	34.65±4.16	34.31±4.51	34.84±3.96	3120.00
社会因子	18.11±1.99	17.94±2.20	18.21±1.85	3486.00
中等卒保育者	(n=51)	良好群 (n=21)	不調群 (n=30)	
レジリエンス	99.25±8.36	99.50±8.53	98.18±8.00	159.00
ソーシャルサポート	44.27±4.50	44.74±3.74	43.82±5.13	182.50
自己効力感	36.35±4.45	36.32±5.31	36.38±3.92	172.00
社会因子	18.63±1.82	18.44±2.25	18.71±1.21	251.50
専科卒保育者	(n=110)	良好群 (n=44)	不調群 (n=66)	
レジリエンス	95.11±6.71	98.81±4.66	94.18±6.53	1079.00**
ソーシャルサポート	42.98±4.36	44.71±1.97	42.08±4.41	1084.00*
自己効力感	34.26±3.84	34.68±3.95	34.22±3.67	1189.50
社会因子	17.86±1.99	18.42±1.57	17.88±2.05	1071.50*
本科卒保育者	(n=28)	良好群 (n=0)	不調群 (n=28)	
レジリエンス	95.07±6.21		95.07±6.21	
ソーシャルサポート	43.86±3.17		43.86±3.17	
自己効力感	33.07±3.91		33.07±3.91	
社会因子	18.14±2.10		18.14±2.10	

* $p < .05$, ** $p < .01$

ルサポート ($p < .05$), 中堅保育者の社会因子 ($p < .01$) において、有意差が認められた。

学歴別にみた中国における保育者のメンタルヘルス良好群と不調群のレジリエンスの調査の結果、全体的に両群のレジリエンス得点 ($p < .01$) とソーシャルサポート因子 ($p < .01$) において有意差が認められた。また、専科卒保育者のレジリエンス ($p < .01$), ソーシャルサポート ($p < .05$), 社会因子 ($p < .05$) において、良好群と不調群の群間に有意差が認められた。

さらに、メンタルヘルスとレジリエンスの相関について、表8の示すように、良好群において、相関係数はやや低いが、レジリエンス、ソーシャルサポート因子、自己効力感因子に対して有意 ($p < .01$) であるため、良好群の保育者のレジリエンス及び構成因子とメンタルヘルスに負の相関があった。一方、不調群においては、相関がなかった。

表8 レジリエンス及び構成因子とメンタルヘルス重篤度の相関

	メンタルヘルス重篤度		
	全体の	良好群の	不調群の
レジリエンス	-.21*	-.35**	-.44
ソーシャルサポート	-.20*	-.22*	-.21
自己効力感	-.25*	-.39**	-.27
社会因子	-.04	-.16*	-.24

* $< .05$, ** $< .01$

4. 考察

SCL-90の得点はメンタルヘルスの状況を表し、レジリエンスの得点是对応力の数字化である。経験年数別にみた結果、メンタルヘルスの不調群の割合が、ベテラン保育者100%, 新人保育者66.38%, 中堅保育者10.34%という順となったのに対して、レジリエンスは逆に、中堅保育者、新人保育者、ベテラン保育者の順となっている(表3, 4)。また、学歴別に、メンタルヘルスの不調群の割合は、本科卒保育者100%, 専科卒保育者60%, 中等卒保育者58.82%という順であったのに対して、中等卒保育者のレジリエンスは、専科卒保育者や本科卒保育者より高かった(表3, 5)。保育者全体のレジリエンスとメンタルヘルス重篤度の相関が-0.21 ($p < .01$) であることから、レジリエンスとメンタルヘルスの重篤度に関してやや低い負の相関があると判断できる。すなわち、レジリエンスの増加と共に、メンタルヘルスの状況がよくなり、不調群の割合が低くなることが考えられる。そのため、メンタルヘルスの改善にあたって、レジリエンスの増強が必要であるといえる。

また、各経験年数別の保育者のレジリエンスについ

て、中国の新人保育者のレジリエンスは中堅保育者より低く、ベテラン保育者より高いことから、中国の保育者のレジリエンスは経験年数別に差異が存在するものの、経験の蓄積よりレジリエンスが高まっていないことが推察される(図2)。有意差が認められなかった社会因子を除き、構成因子の自己効力感やソーシャルサポートにおいても、ベテラン保育者の得点が、新人保育者や中堅保育者より低い。すなわち、ベテラン保育者の対応力が他の保育者より低いことを示している。

その理由に関して、経験年数ごとに有意差が見られるソーシャルサポートや自己効力感に着目し、保育者の社会環境から考察を行う。近年の中国において、待機児問題を解消して入園率を高めるために、多くの保育者が必要になった。より多くの大学卒業生を保育職に就かせるため、新人保育者の待遇も以前より手厚く設定されている。しかし、新人保育者の待遇が手厚く設定される一方で、ベテラン保育者の待遇はほとんど変わっていない。このように、政策の偏りにより、新人保育者とベテラン保育者に対する社会からのサポートの差異が生じている。また、新人保育者を早く仕事に慣れさせるため、ベテラン保育者とのマンツーマン方式で組み合わせる場合が多い。しかし、互いの保育理念の違いにより、仕事に支障が生じる場合もあると指摘されている(楊, 2009)。従来よりある職場の人間関係の問題に加えて、職場からのサポートも十分ではない。さらに、近年の中国においては、経済が急速に発展し、大学卒業生の社会への進出意欲や労働意欲が高まっている。保育者養成校では、新しいカリキュラムに基づいて、実習時間を8週以内に減少させ、保育者と子どもの接触が少なくなっている。そのため、就職時には、実習で試したくてもできなかったことを実践で試そうとする保育者が多い。就職後に子どもと接し、仕事の意欲が高い状態にあることが考えられる。したがって、自己効力感も高い。しかし、経験年数の増加に従い、子どもとの接触や職場の人間関係などの多面的な課題を抱え、挫折なども経験するため、ベテラン保育者は自己効力感が低くなったと考えられる。

このように、十分なソーシャルサポートが得られないことと自己効力感の低下がベテラン保育者のレジリエンスの低下、すなわち、不調群の割合が高い原因だと考えられる。

Wyatt (1996) によると、職業人の経験年数の増加による専門的な知識やスキルの発展、ならびに精神的な安定が持続することは、職業を維持する重要な条件となる。すなわち、保育者が精神的に安定して仕事を継続するために、経験年数の増加によりレジリエン

スの能力が高まることが重要である。これは保育者のキャリア形成の観点からも、理想的なモデルである。しかし、本研究において、経験年数によるレジリエンスの変化では、中国のベテラン保育者は、新人保育者や中堅保育者よりもレジリエンスが低いことが明らかになった。新人からベテランへのキャリアパスが、うまく進行していないと推察できる。これまではベテラン保育者は保育経験も高く、メンタルヘルスも安定していると考えられてきたことから、メンタルヘルスの改善の研修対象となつてこなかった。しかし、本研究では、ベテラン保育者のレジリエンスは必ずしも高いものとは言えず、今後、そのような研修を実施する必要性があることが明らかとなった。

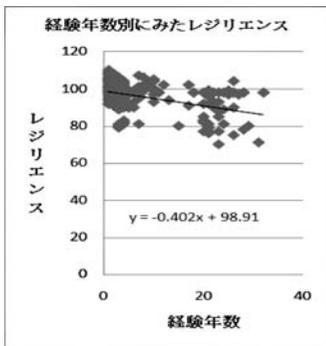


図2 経験年数別にみたレジリエンス得点の散布

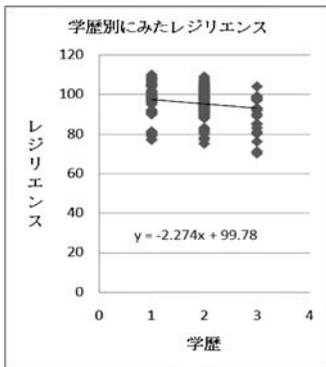


図3 学歴別にみたレジリエンス得点の散布

さらに、学歴別にみた保育者のレジリエンスについて、有意差が見られるレジリエンスと自己効力感因子のいずれにおいても、中等卒保育者の得点が高かった(図3において、1は中等卒保育者、2は専科卒保育者、3は本科卒保育者)。

1993年2月に中国の国務院により「中国教育改革及び発展綱要」が公布され、保育者養成機関の改革が行われ始めた。改革の目的は「保育者の学歴や資質を向

上させる」ことであつた。その中では、心理素質教育に関して、「保育者の心理面の健康を確保し、健全な人格を形成するため、より豊かな研究能力と鋭い思考力だけでなく、明るい性格、良い人格、社会適応力、忍耐力などの育成を重視する」と規定された。すなわち、保育者の学歴が高くなると同時に、研究能力やレジリエンスの増加も期待されている。しかし、本研究の結果では、学歴が高くなつても、保育者は新しいレジリエンスを獲得していない。中等卒保育者より、自己効力感が低かつたことから、二種類の高等養成校卒の保育者は基本知識や基本技能が不足し、保育職への愛着感も低いことが理由として考えられる。これを踏まえ、学歴を維持しながらレジリエンスを高めていくために、高等幼児師範専科大学や本科大学で研究能力を養成しながら、基本知識や基本の技能の学習も重視し、自己効力感を養成する必要があると考える。

以上の考察から、ベテラン保育者や高等養成校卒の保育者のレジリエンスの改善が喫緊な課題として明らかになった。しかし、今日の中国においては、これらのことを保障するシステムが不足しており、援助体制が整っていない。

本研究の結果を踏まえ、保育者のメンタルヘルスやレジリエンスの状況を改善する際に、園内でのベテラン保育者への支援体制の構築と、高等養成校のカリキュラムにおける基本知識や基本技能の充実が必要であると思われる。

5 今後の課題

本研究において、保育者のレジリエンスとメンタルヘルスの実態やその関連を検討し、経験年数別や学歴別にレジリエンスとメンタルヘルスとの間に相関が見られたが、相関係数がやや低いので、他にメンタルヘルスに影響を与える因子があると推測できる。そのため、保育者のストレス対応力であるレジリエンスだけではなく、対応方法などの検討も必要と考える。また、経験年数にみたベテラン保育者と学歴別にみた本科卒保育者のすべてがメンタルヘルスが不調となっているため、良好群と不調群の比較が出来なかった。またサンプルを増やし、検討する必要がある。

【主要参考文献】

- 上村真生・七木田敦. 保育士のメンタルヘルスに関する研究: 保育士の経験年数に着目して. 保育学研究 2012;50:53-60.
 佐藤学. 教師というアボリア. 世織書房1997.

- 祐宗省三.S-H式レジリエンス調査.竹井機器工業株式会社.2008
- 田辺昌吾・松山由美子・古市久子.保育者は経験年数を重ねることによってどのように変化するのか.四天王寺大学紀要2014;58:231-241.
- 牛金芳.园长**领导力**探析.早期教育2012;6:36-38.
- 袁錦芳.小学女教师的**压力应对方式与职业倦怠的关系**.中国健康心理学杂志2009;5:547-549.
- 袁小平·李小卓.湖南省幼儿权益**保护现状调查分析**.当代教育理论与实践2015;1:6-10.
- 王鋼.幼儿教师**职业幸福感的特点及其与职业承诺的关系**.心理发展教育2013;6:616-624.
- 王征宇.症状自评量表SCL-90.上海精神医学.1984;68-70.
- 金芳·王永秋.幼儿教师**心理健康状况调查分析**.沈阳师范大学学报(社会科学版)2009;33:163-166.
- 黄岩梅.太原市幼儿教育**现状分析及发展对策**.太原大学教育学院学报2013;1:40-42.
- 曾萍.浅谈如何解决幼儿教师**心理健康问题**.国家教师科研基金十一五阶段性成果集2010;1-3
- 張世萍·魏勇刚·牟映雪.幼儿教师**归因方式对其职业倦怠的影响**.学前教育研究2012;8:50-54.
- 張静.论家庭因素及幼师**心理健康对幼儿心理的影响**.中国创新科教导刊2013;15:55-57.
- 李艷.幼儿教师**心理健康状况调查**.山东精神医学2005;18:182-183.
- 李海萍·温佳慧·蘇春晖.幼儿教师**心理健康状况及其影响因素探究**.吕梁教育学院学报2014;31:29-34.
- Aryee, S., Wyatt, T. and Stone, R. (1996), Early career outcomes of graduate employees: the effect of mentoring and ingratiation, *Journal of Management Studies*, 1, 95-118.
- Masten, A. S., Coatsworth, J.D. (1998) .The development of competence in favorable and unfavorable environments: Lessons from research on successful children.*American psychologist* 53 (2), 205
- Hiew, C. C., Mori, T. Shimizu, M. & Tominaga, M. (2000). Measurement of resilience development: Preliminary results with a State-Trait Resilience Inventory. *Journal of Learning and Curriculum Development*, 1, 111-117.
- Masten, A. S., Best, K. M., & Garmezy, N. (1990). Resilience and development: Contributions from the study of children who overcome adversity. *Development and Psychopathology*, 2, 425-444.